

■ 病院概要

- 開設者名 社会医療法人 新潟勤労者医療協会 理事長 高橋 常彦
- 病院長名 五十嵐 修
- 標榜診療科目
 内科、循環器科、消化器科、呼吸器科、神経内科、糖尿病内科、外科、整形外科、小児科、皮膚科、婦人科、リハビリテーション科、泌尿器科、リウマチ科、麻酔科、心臓血管外科
- 使用許可病床数

	使用許可病床数	一日平均入院患者数
一般	225床	253.1人
回復期リハ病棟	36床	34.5人



- 一日平均外来患者数 409.1人
- 医師数 常勤 30人 非常勤 1.7人 ■ 年間手術件数 445件
- 病院併設施設 通所リハビリテーション、居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション、病児デイサービスきしゃぼっぽ
- 救急告示病院の指定 有
- 学会指定施設の状況
 日本整形外科学会専門医研修施設、日本内科学会教育関連病院、日本神経学会認定准教育施設、日本アレルギー学会認定准教育施設、日本消化器病学会関連施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本小児科学会教育関連施設、日本外科学会外科専門医制度関連施設、日本認知症学会教育施設、日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設、日本リハビリテーション医学会研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設

医学生の皆様へ

先輩研修医の声

私が下越病院を研修先として選んだのは、単純に働きやすそうだったからです。実際、上の先生とも気兼ねなく話せて医局の居心地もいいですし、他職種との間にもあまり壁がなく、検査室やCT室、リハビリ室などに気軽に足を運んでいます。病院が小さいぶん小回りが利くので、研修内容も希望に応じて柔軟に対応してもらえます。また、処方や検査の指示出しだけでなく、手技や方針決定も早いうちからさせてもらえるので、働きやすいだけでなく、「医師として働ける」ようになるにも最適な環境だと思っています。(3年目医師・研修プログラムB選択)

研修医の声

下越病院は、地域の中核病院としての役割を担っており、たくさんの方のcommon diseaseを経験することができます。医師数は多いとは言えませんが、その分各科の垣根がとても低く、どの科を研修していても他科の医師にコンサルトできる環境が整っています。また、研修のカリキュラムの自由度が高く、希望する科の研修をすることができるのが特徴です。下越病院での2年間で、将来どの科に進むとしても必要となる知識や技術を身につけることができます。(2年目研修医・研修プログラムA選択)

下越病院は中小規模の病院です。しかし、秋葉地区だけでなく、五泉市、加茂市、阿賀野市などからも患者さんを受け入れており、まさに地域医療の中核を担う病院です。研修は内科研修に力を入れており、3ヶ月間ずつローテーションします。長い期間研修をすることで、軽症から重症例、難渋する例まで学べると思います。また、救急研修はローテーションではなく、2年間通して単位を持ち、また当直帯の救急外来も担当します。1次～2次救急として、軽症から超重症例まで診る機会があります。当院で全て治療できるわけではないですが、他科コンサルト、他院転送する判断能力を養えます。(1年目研修医・研修プログラムA選択)



Access



●JR新津駅より車で10分 磐越自動車道新津ICを降りてすぐ

照会先
 事務長室 事務次長 宮野 大
 TEL 0250-22-4711 FAX 0250-24-4740
 E-mail kaetsu@niigata-min.or.jp

病院見学の受入 随時
 申込方法
 当院ホームページ「医学生実習申込フォーム」よりお申し込みください。
http://niigata-min.or.jp/kaetsu_php/mstudent/mform.php

研修概要

研修プログラムの目的と特徴 (平成30年度研修医)

研修プログラムA

■ 目的

医師として求められる、患者を全人的に診ることのできる基本的な診療能力を修得するとともに、将来専門とする研修科を重点的に研修することにより、将来のキャリア形成に繋げる。

■ 特徴

2年間を通して救急研修を行う。
 1年次に内科を9ヶ月(「循環器・透析」、「消化器・糖尿病」、「呼吸器・神経」を各3ヶ月ずつ)、選択必修(外科・麻酔科、小児科、産婦人科、精神科より2科目を選択し各科1ヶ月以上)を2ヶ月以上の研修を行う。
 2年次には地域医療1ヶ月、選択必修(将来専門とする診療科や、地域医療などから研修医が選択して研修)を11ヶ月行う。

<プログラム例>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	救急研修 オリエン テーション	内科 (循環器・透析)	内科 (消化器・糖尿病)	内科 (呼吸器・神経)	救急	救急	救急	救急	救急	救急	救急	救急
2年次	地域医療	救急	救急	救急	救急	救急	救急	救急	救急	救急	救急	救急

研修プログラムB

■ 目的

臨床の基本である内科を中心に、必要と考える研修科を一定期間研修することにより、患者を全人的に診ることのできる基本的な診療能力を修得する。

■ 特徴

2年間を通して救急研修を行う。
 内科9ヶ月、小児科1ヶ月、外科・麻酔科2ヶ月、整形外科2ヶ月、精神科1ヶ月、産婦人科1ヶ月、地域医療1ヶ月、選択必修6ヶ月の研修を行う。

<プログラム例>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	救急研修 オリエン テーション	内科 (循環器・透析)	内科 (消化器・糖尿病)	内科 (呼吸器・神経)	救急	救急	救急	救急	救急	救急	救急	救急
2年次	救急	救急	救急	救急	救急	救急	救急	救急	救急	救急	救急	救急

※救急、当直研修はステップアップ形式で行い、研修医の到達度に合わせて段階的に研修を行う。
 ※産婦人科研修は新潟市民病院、とくなが女性クリニックのどちらから研修医の希望により選択し、研修を行う。
 ※精神科研修は新潟信愛病院で研修を行う。
 ※地域医療は新潟市内、長岡市内にある7か所の診療所から研修医の希望により選択し、研修を行う。(このうち1週間、新潟市保健所での研修も可能)

■ 協力病院・協力施設

新潟大学医学総合病院、新潟市民病院、新潟県立松代病院、新潟県立がんセンター新潟病院、新潟信愛病院、とくなが女性クリニック、舟江診療所、沼垂診療所、ときわ診療所、かえつクリニック、坂井輪診療所、ながおか医療生協診療所、生協かんだ診療所、老人保健施設おぎの里、小出耳鼻咽喉科、のもと皮フ科クリニック、あおぞら新潟整形外科、新潟市保健所

■ 研修医の待遇 (平成30年度研修医)

1年次月額
 固定給与: 364,800円(臨床経験5ヶ月に満たない時期は334,800円)
 当直手当: 15,000円～25,000円/2回/月(ファーストコールから)
 半直手当: 7,500円～12,500円/2回/月(ファーストコールから)
 住宅手当: 10,000円～25,000円
 研修図書費: 10,000円
 月額平均計: 412,000円(平成27年度実績)
 賞与: 656,640円

2年次月額
 固定給与: 395,000円
 当直手当: 15,000円～25,000円/2回/月(ファーストコールから)
 半直手当: 7,500円～12,500円/2回/月(ファーストコールから)
 住宅手当: 10,000円～25,000円
 研修図書費: 10,000円
 月額平均計: 554,000円(平成27年度実績)
 賞与: 1,066,500円

■ 勤務体制 勤務時間 日勤: 8:30～17:15
 半当直: 17:00～22:00
 当直: 17:00～8:30
 1週間に午前又は午後の救急研修2～3単位

■ 研修医当直 回数(月平均) 4回/月(半当直2回、当直2回)

当直時の勤務体制
 (研修医以外の当直医数) 2人(内、1人は半当直医)
 (当直研修医数) 1人
 半当直は、17:00～22:00の外来救急を対応する。
 当直は、副当直医として17:00～22:00は病棟回診、病棟救急、22:00～8:30は病棟、外来救急を対応する。
 研修医1年目は、救急、半当直、当直を研修の到達度によりステップアップ形式で行う。
 (例:4月～セカンドコール、5月～同時コール、7月～同時コール・ファーストタッチ、9月～ファーストコール、1月～救急ひとり立ち、2月～半当直ひとり立ち)
 ※初期研修中は原則として、ひとり当直は行わない。

■ 研修医の学習環境

居室 各研修医専用のデスク有
 研究室有
 当直室5部屋
 図書・文献 図書室は終日利用可能
 医中誌利用可能
 Up To Date 利用可能
 文献検索無料
 研修図書費: 月額10,000円補助
 インターネット環境 各デスクLAN環境完備、電子カルテ用PC支給

■ 研修の宿舎の有無など

宿舎 無 希望により紹介可能
 初回の引越し費用は当院規定に沿って病院で負担する。
 住宅手当(25,000円/月)有
 食事 職員食堂・弁当宅配・売店有
 近隣にコンビニエンスストア有
 夕食は必要に応じて出勤可能